

田植え後の水管理をし
6月頃に田干しを
行いましょう!



浅水管理で初期分けつの早期確保!!

田植え後の水管理

田植え後の水管理は、稲のその後の生育に大きく影響します

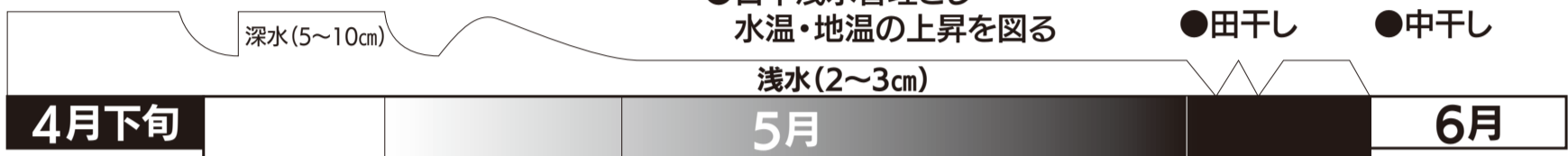
●田植え後5日間
程度深水管理

●除草剤散布は、一週間程度入水の必要がない水深で行う

●日中浅水管理とし
水温・地温の上昇を図る

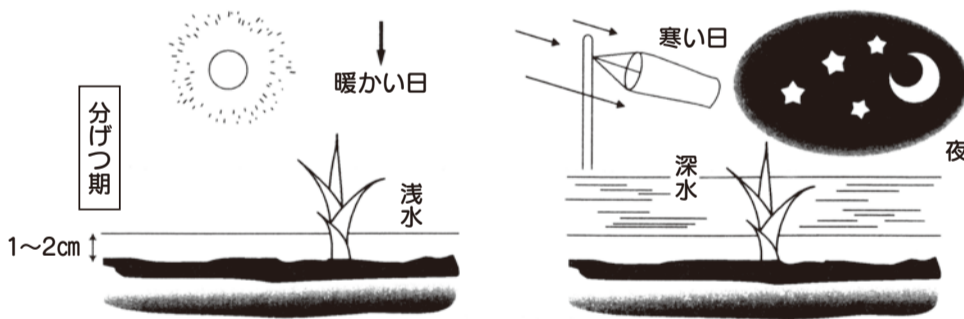
●田干し

●中干し

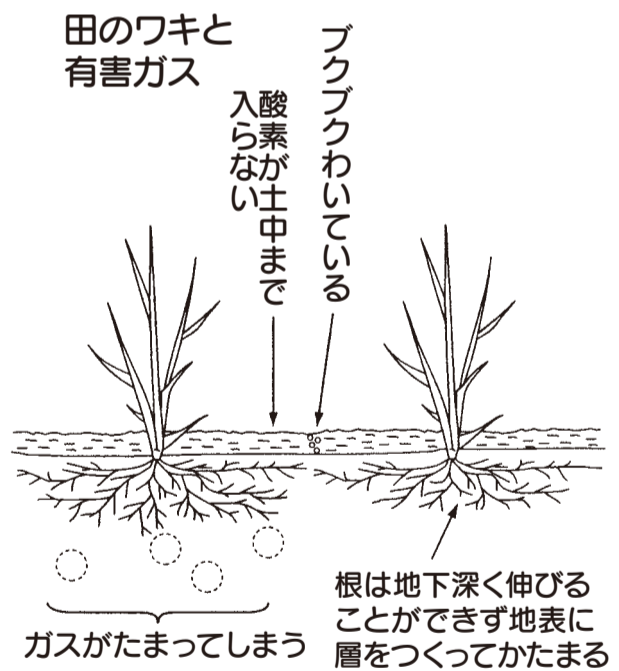


- ①活着後は、日中2~3cmの浅水管理とし、初期分けつを早く確保する。ただし風の強い日や低温の日等天気の悪い日は、苗が水没しない程度の深水管理とする。
- ②中干しまでに田干しを2~3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。水の溜めっぱなしは、藻やガスの発生原因となります。
- ③6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすくするため、溝切りを必ず実施する。

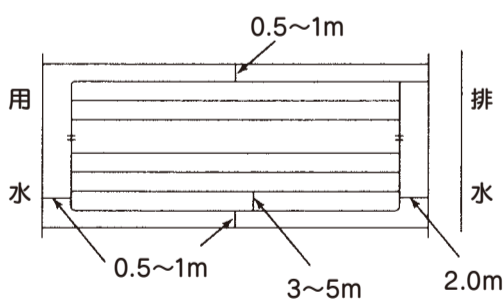
① 晴天日の浅水管理で初期分けつを早く確保!



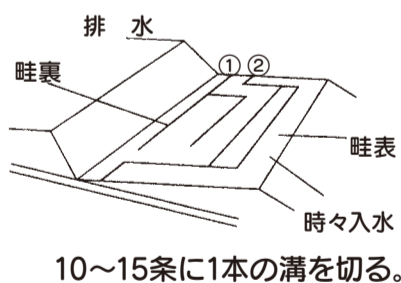
② 田干しによるガス抜きをしよう!



③ <溝切りの例> 平坦地の場合



谷田の場合



※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

生産履歴記録簿とGAPを的確に記帳しましょう!

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう。

■初期害虫防除 (随時防除)

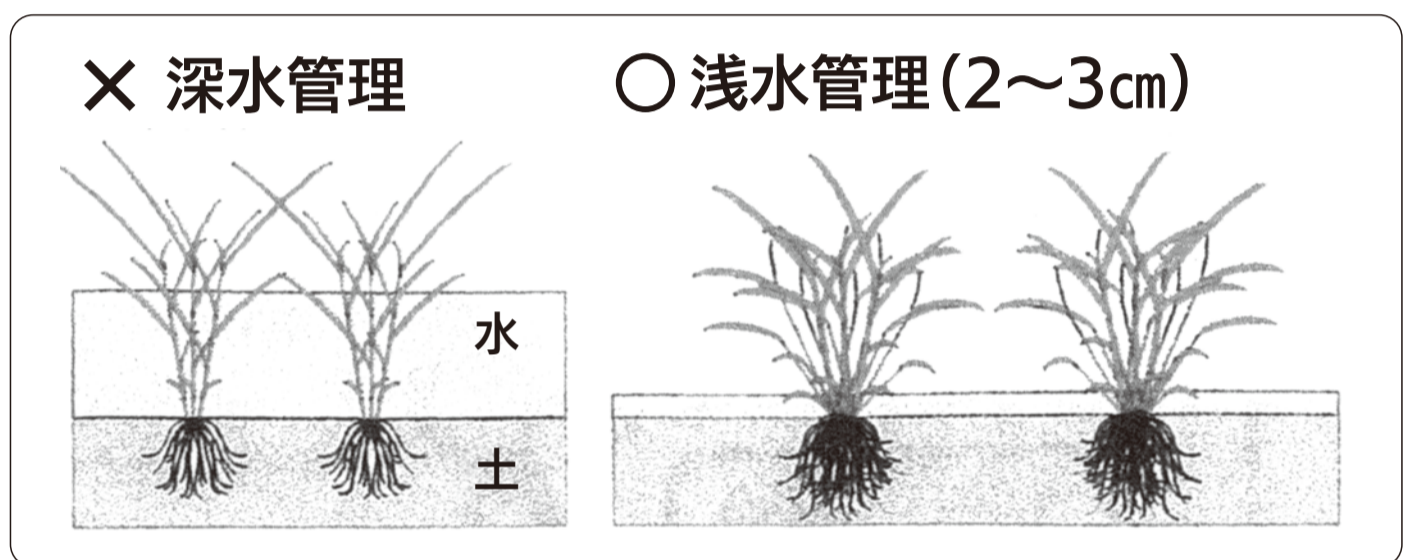
病虫害名	防除時期	薬剤名	散布量	備考
イネミズゾウムシ	5月中旬～下旬	トレボン粒剤	2～3kg/10a	晴天時に 湛水状態で 散布する
イネドロオウムシ	6月10日前後	トレボン粒剤	2～3kg/10a	
ニカメイチュウ	6月上旬～中旬	パダン粒剤4	3～4kg/10a	

■生育初期の水管理ポイント

活着後の浅水管理と田干しの実施

- ◇活着後も深水管理を継続すると、初期分けつの発生が遅れます。
- ◇中干し開始が遅れると、遅発分けつの発生を抑制できません。

遅発分けつの増加による弱小穂の増加は、登熟能力が弱い穂を増加させることになり、乳白粒や未熟粒の発生に繋がります。



乳白粒・未熟粒の発生防止対策

- ◇活着後の浅水管理で有効分けつを早期にしっかり確保する。
- ◇適期に中干しを実施し、遅発分けつの発生を抑制する。

初期生育を促進する水管理

- ①活着後は浅水管理をし、日中の水温・地温の上昇を図る。
- ②天候の良い日は軽い田干しをしてガス抜きをし、根の活力を高める。

